道徳参観日　４年生　「せいいっぱい生きるー命の詩―」

道徳科「せいいっぱい生きるー命の詩―」という教材を通して，命の尊さや今を大切に生きることの意味について考える授業を行いました。

病気と向き合いながら前向きに生きた詩の作者の思いにふれ，自分の生き方をみつめ直しました。

授業の最後には，保護者の方に協力をしていただき，お子様へ向けたメッセージ（手紙）を渡すことができました。

児童は，作者の思いを考えたり，保護者の方からの手紙を読んだりすることを通して改めて命の大切さについて考えを深めることができました。

命

宮越（みやこし）　由貴奈（ゆきな）

命はとても大切だ
人間が生きるための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命はいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない
何年も何年も
月日がたってやっと
神様から与えられるものだ
命がないと人間は生きられない
でも
「命なんかいらない。」
と言って
命をむだにする人もいる
まだたくさん命がつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから　私は命が疲れたと言うまで
せいいっぱい生きよう

【学習の振り返りから】

・お家の方からの手紙を読んで，家族にすごく愛されていると知ってもっともっと命を大切にしようと思いました。

・後悔しないように自分らしく生きるようと思いました。

・命は無駄にしたくないし，家族や友達の命も大切にしたいです。

・命がつきるまで楽しく生きていきたいです。

・後悔しないように自分らしく生きていきたいです。